

令和 7 年12月16日

幕別町議会議長 寺林 俊幸 様

民生常任委員会委員長 岡本眞利子

民生常任委員会報告書

令和 7 年 9 月16日に承認されました委員派遣について、次のとおり会議規則第77条の規定により報告する。

記

1 道内先進地視察について

(1) 視察期日

令和 7 年10月 8 日～ 9 日（2 日間）

(2) 出席委員

岡本眞利子、藤原 孟、山端隆治、酒井はやみ、石川康弘、藤谷謹至
(以上 6 名)

(3) 視察地及び視察項目

① 石狩市「農福連携の取組について」

㊦ 日 時

令和 7 年10月 8 日（水）午後 1 時40分～午後 2 時40分

㊧ 場 所

社会福祉法人はるにれの里 多機能型事業所 ふれあいきのこ村

㊨ 対応者

社会福祉法人はるにれの里 多機能型事業所

ふれあいきのこ村 所長 高島 和臣 氏

㊩ 目 的

石狩市が設置していたごみ焼却施設の排熱を利用し地域の高齢者と施設利用者が継続的に支援を受けながら働けるような施設として「ふれあいきのこ村」を開設した。バイオマスを活用した菌床シイタケ栽培を行っており、施設利用者が農福連携を通じ持続的な就労活動やより豊かな社会生活を送り、経済的に自立できるよう手助けしている取組について研修する。

㊪ 内 容

ふれあいきのこ村の施設の概要や運営方法、特徴について説明を受けた後、施設見学を行い、質疑応答を行った。

㊫ 所 感

ふれあいきのこ村は、重度の障がいを持つ人も地域の中で安心して

働き、収入を得て生活を築いていくことを目指す実践的なモデルであると感じた。単なる作業提供ではなく、「働くことを通じた自立」と「社会参加」を実現している点が大きな特色である。

特に印象的だったのは、施設全体が「利用者の理解しやすさ」を軸に設計されていることである。掲示や動線の工夫、作業内容の明確化など、一人ひとりの特性に寄り添った環境づくりが徹底されていた。また、スタッフが利用者の特性に応じた支援を行い、共に働く姿勢が職場全体に根づいていた。

さらに、廃熱利用など地域資源を活用した省エネ・環境配慮型の運営は、持続可能な就労支援モデルとしても注目に値する。こうした取組が高品質の生産と安定した収益につながり、結果として利用者の工賃向上にも寄与している。

ただし、燃料価格など外的要因による経費上昇が、今後の継続的運営に影響を及ぼす恐れがある。こうした現場の課題を把握し、行政としても安定的な事業運営を支える仕組みづくりが求められると感じた。

今回の視察を通して、障がい者の就労支援が単なる福祉施策ではなく、「地域での生活を支える産業」として根づいていることを実感した。今後、町の障がい福祉施策を進めるうえで、ふれあいきのこ村のように働くことを通じて地域とつながる仕組みづくりを意識していくことが重要であると考えた。

② 札幌市「介護機器の見学について」

㊦ 日 時

令和7年10月8日（水）午後3時20分～午後4時30分

㊧ 場 所

株式会社マルベリー さわやかセンター札幌東

㊨ 対応者

株式会社マルベリー 代表取締役会長 高橋 和則 氏

株式会社マルベリー 在宅事業部札幌エリア部長 大橋 正典 氏

株式会社マルベリー 施設営業推進室室長 上西 丈夫 氏

株式会社マルベリー 在宅事業部 稲葉 有沙 氏

㊩ 目 的

高齢化の進展により介護ニーズが増大する中で、介護職員の人手不足や業務負担の増大が深刻な問題となっており、この状況を改善するため、国では介護ロボットやICTなどの導入後の継続的なテクノロジー活用を支援していることから介護機器を取扱っている企業に伺い、介護者の負担軽減につながる機器を把握することを目的とする。

㊤ 内 容

介護ロボットや移乗支援ロボット、介護用洗身用具、自動ラップ式排泄処理装置などの最新の介護機器を体験した後に、各種事業の取組について説明を受け、質疑応答を行った。

㊦ 所 感

限られた1時間の研修時間ではあったが、現場で活用されている多様な介護機器を実際に体験でき、非常に有意義であった。

介護現場では慢性的な人手不足が続いており、職員の待遇改善や労働環境の改善、働き方改革が急務となっている。

今回の視察を通じ、介護機器の積極的な導入が介護者の身体的負担軽減やサービスの質向上に寄与することを実感した。

併せて、こうした機器導入を推進するためには、国や自治体による補助金・助成制度などの支援が不可欠であると強く感じた。

今回の研修で得られた知見をもとに、地域における介護支援や見守り活動の充実に活かしていき、特に、ICT及びロボット技術の活用促進を通じ、介護現場の効率化と負担軽減の両立を図っていく。

③ 札幌市「動物愛護管理の取組について」

㊶ 日 時

令和7年10月9日（木）午前8時50分～午前10時00分

㊷ 場 所

札幌市動物愛護管理センター

㊸ 対応者

札幌市動物愛護管理センター 所長 千葉 司 氏

㊹ 目 的

札幌市動物愛護管理センターは、平成30年5月に策定された「札幌市動物愛護管理推進計画」に基づき整備。主に事務機能を担う旧八軒本所と、主に動物収容・譲渡機能を担う福移支所に分かれていた2つの施設の機能を集約するとともに、それぞれの機能を強化した新しい施設として、令和5年11月から供用を開始した。動物愛護・管理に関する行政の現状を把握し、動物の適正な管理、動物愛護の普及啓発、殺処分削減への理解を深める取組などについて研修する。

㊵ 内 容

札幌市動物愛護管理センターの施設見学を行い、施設の概要や運営方法、特徴について説明を受けた後、質疑応答を行った。

㊦ 所 感

公共施設とは思えない斬新な外観、温かみのある木造建築は省エネに特化した構造で札幌市建設施設の「ZEB Ready」認証第一号であり、動物のみならず環境にも優しい施設である。

動物にとって幸せな施設になってほしいという思いが込められている愛称「あいまる（愛＋アニマル、愛＋まるっと）さっぽろ」は市民からの公募で決定し、より市民に親しみのある施設となっている。

人と動物が同等以上、動物主体の取組に感銘を受けた。幕別町も人と動物が共生する社会、人と動物が幸せに暮らせる町の実現を目指したい。

また、災害時にも対応できるように「犬と猫の防災手帳」を製作し、防災訓練などへ参加し、普及啓発を図っていきたいと感じた。

④ 札幌市「農福連携の取組について」

㊦ 日 時

令和7年10月9日（木）午前10時30分～午前11時50分

① 場 所

特定非営利活動法人手と手 就労支援センター手と手 みのり彩園

㊧ 対応者

特定非営利活動法人手と手 就労支援センター手と手

サービス管理責任者 柳瀬 麻由子 氏

㊨ 目 的

みのり彩園は障がいのある方が農業に取り組む「農福連携」の中でも、農薬や肥料を使わない自然栽培で農作物を作る「自然栽培パーティ」に参加している。その取組は全国の90か所以上の福祉施設が参加しているものであり、北海道ブロックの中心として活動を行っている取組などについて研修する。

㊩ 内 容

みのり彩園の農福連携の取組や運営方法、自然栽培の特徴などについて説明を受けた後、農場見学を行い、質疑応答を行った。

㊪ 所 感

今回訪問したみのり彩園は、農福連携の種類の中でも施設自体が農業に参入し、障がい者を雇用することで就労の機会を提供していた。

知的・身体・精神・視覚障がいなど多種にわたる障がいのある方を雇用しており、また、収穫から加工販売まで行うことで、年間を通しての就労継続が可能となっている。自然の中の作業であるため、大声を出しても動いても良い、のびのびとした環境で働くことができる環境である。「障がいのある方と社会との接点を作る」ことを考え、農場

に人を呼ぶイベントを開催したり、「農福士」という称号をつくり、働く生きがいや地域の一員としての役割を持つことができるような工夫がなされている。

また、工賃も300円から700円で、一般の障がい者就労施設の工賃と比較すると、高額な工賃であることが確認された。

様々な点において優れた施設であり、幕別町にもこういった施設が必要であると強く感じた。

令和7年10月8日（水）
社会福祉法人はるにれの里 多機能型事業所 ふれあいきのこ村（石狩市）



（概要説明）



（栽培ハウス内見学①）



（栽培ハウス内見学②）



（計量室内見学①）



（計量室内見学②）



（管理棟外観）

令和7年10月8日（水）
株式会社マルベリーさわやかセンター札幌東（札幌市）



（概要説明）



（介護機器体験「移乗支援ロボット」）



（介護機器体験「介護ロボット」）



（介護機器体験「介護用洗身用具」）



（介護機器体験
「自動ラップ式排泄処理装置」）



（質疑応答）

令和7年10月9日（木）
札幌市動物愛護管理センター（札幌市）



（建物外観）



（施設内見学「猫の部屋」）



（施設内見学「処置・検査室」）



（施設内見学「犬の部屋」）



（施設内見学「猫の遊び場」）



（概要説明・質疑応答）

令和7年10月9日（木）
特定非営利活動法人手と手 就労支援センター手と手 みのり彩園（札幌市）



（概要説明①）



（概要説明②）



（概要説明③）



（農場見学①）



（農場見学②）



（農場見学③）